

Clinical and Statistical Studies on In-Patients over the Past Thirty-One Years and Five Months at the Department of Dentistry and Oral Surgery in Fukuoka University Hospital

Masazumi SAIKI¹⁾, Naoki IKEYAMA²⁾, George UMEMOTO²⁾,
Masaru TESIMA²⁾, Masaaki AJISAKA¹⁾, Ikuko INOUE²⁾,
Hiromasa TAKAHASHI²⁾, Naoko AOYAGI²⁾, Mari INOUE²⁾,
Yukitomo UCHIYAMA²⁾, Yousuke HAYAMA²⁾, Yumiko NAKASIMA²⁾,
Akira TOYOFUKU²⁾ and Toshihiro KIKUTA²⁾

¹⁾ Department of Dentistry and Oral Surgery, Hakujiji Hospital

²⁾ Department of Dentistry and Oral Surgery, School of Medicine, Fukuoka University

Abstract : Clinical and statistical studies were made on in-patients at the Department of Dentistry and Oral Surgery, Fukuoka University Hospital during a period of thirty-one years and five months from 1973 to 2004. In the present study research was chiefly done to contribute to advancement of community medicine.

- 1) The new patient total number during this period was 34,877 cases, and the total number of inpatients was 2,693 cases (7.7%).
- 2) The most common age of in-patients was the 20's, followed by those in their teens, under teens and 30's respectively.
- 3) The following diseases were found in various frequencies : oral maxillofacial injury 658 (24.4%) teeth and periodontal disease 530 (19.7%), infections disease in teeth 497 (18.5%).
- 4) Of the 1586 in-patient cases (58.9%) had been referred from other institutions (a dental practitioner etc).
- 5) About fifty percent of the patients resided in the western part area of Fukuoka-city.

Key words : Clinical and statistical study, In-patient, Dentistry and Oral Surgery

福岡大学病院歯科口腔外科における過去31年 5 か月間の 入院患者の臨床統計的検討

齋木 正純 ¹⁾	池山 尚岐 ²⁾	梅本 丈二 ²⁾
手島 将 ²⁾	鯨坂 正秋 ¹⁾	井上 育子 ²⁾
高橋 宏昌 ²⁾	青柳 直子 ²⁾	井上 真里 ²⁾
内山 順誠 ²⁾	葉山 揚介 ²⁾	中島由美子 ²⁾
豊福 明 ²⁾	喜久田利弘 ²⁾	

¹⁾ 医療法人白十字会白十字病院歯科口腔外科

²⁾ 福岡大学医学部歯科口腔外科学講座

要旨 : 1973年 8 月から2004年12月までの過去31年 5 か月間に福岡大学病院歯科口腔外科で入院下治療した患者2693例について地域への貢献を把握する目的で臨床統計的検討を行った。

1. 31年5か月間の新来患者総数は34,877例で入院患者総数は2693例（7.7％）であった。
 2. 年齢別では20歳代が最も多く、次いで10歳代、10歳未満、30歳代の順であった。
 3. 疾患別では口腔顎顔面外傷658例（24.4％）、歯牙・歯周疾患530（19.7％）、菌性感染症497例（18.5％）であった。
 4. 受診患者は、紹介なしの直接受診、歯科開業医からの紹介が多かった。
 5. 地域別では福岡市西部地域が50.6％を占めていた。
- 今回の臨床統計的検討から、当科の地域的貢献は比較的高いものと示唆された。

キーワード：臨床統計的検討、入院患者、歯科口腔外科

緒 言

1973年8月4日に福岡大学病院の開院とともに歯科口腔外科も診療を開始、以来31年5か月を経過した。歯科開業医においては、一次医療が診療の中心であり、医学部歯科口腔外科は歯科における二次医療機関、医科における3次医療の援助科としての役割が要求される。そこで今回、歯科二次医療機関としての地域での医療的貢献度を評価する目的で当科入院下において治療した症例を対象に臨床統計的検討を行った。

対 象 ・ 方 法

対象は1973年8月3日から2004年12月31日までの31年5か月間に福岡大学病院歯科口腔外科を受診し、入院下で治療した2,693例（男性1,507例、女性1,186例）である。検討には入院診療録を用いた。

検討項目

- I. 新来患者および入院患者数
- II. 年齢および性別患者数

III. 疾患別患者数および疾患内容症例数

IV. 紹介元医療機関および紹介患者数

V. 地域別患者数 以上の項目とした。

結 果

I. 新来患者および入院患者数

1973年8月～2004年12月までの31年5か月間で新来患者総数は34,877例、そのうち入院患者は2,693例（7.7％）であった。1973年～1994年までは新来患者数は759～1,211例で、入院患者数は8～99例（1.0～8.3％）であった。1995年以降の新来患者数は1,124～1,467例、入院患者数は114～143例（8.6～11％）であった。特に1995年以降の新来患者数は1,100例を下回ることなく、新来患者平均1,167例、入院患者平均114例（9.8％）であった（図1）。

II. 年齢および性別患者数

性別患者数は男性1,507例、女性1,186例で男性に多く、男女比は1.27：1であった。年齢別で見ると、20歳代が最も多く、次いで10歳代、10歳未満と続いていた。70歳

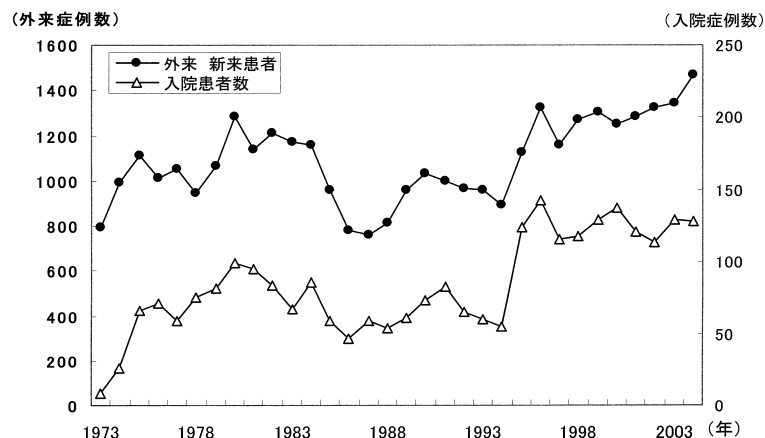


図1 新来患者および入院患者数

代、90歳代を除くと各年代ともに男性が多い傾向であった（図2）。

Ⅲ．疾患別患者数および疾患内容症例数

疾患別患者数では、口腔顎顔面外傷658例（24.4%）、歯牙・歯周疾患530例（19.7%）、歯性感染症497例（18.5%）、嚢胞性疾患275例（10.2%）、腫瘍性疾患204例（7.6%）と続いていた（図3）。疾患内容例数では、口腔顎顔面外傷では下顎骨折341例が最も多く、次いで歯槽骨骨折・歯牙脱臼156例、上顎骨折136例、軟組織裂傷96例、以下複合疾患が多く見られた。歯性感染症は智歯周囲炎208例、上顎骨周囲炎199例、下顎骨周囲炎181例が多く、嚢胞性疾患は歯根嚢胞118例、貯留嚢胞75例、含歯性嚢胞45例が多く、顎変形症では下顎前突症74例、下顎非対称症25例が多く、以下表1に示す（表1）。

Ⅵ．紹介元医療機関および紹介患者数

紹介元医療機関は、紹介なしの直接受診1,107例

（41.1%）、歯科開業医からの紹介受診830例（30.8%）、内科開業医からの紹介434（16.2%）と続いており、紹介患者は1,586例（58.9%）であった（図4）。入院患者における紹介患者数の経年的変化は、1973～1994年までは5～59例であったが、1995年以降は40～91例と1995以降は紹介患者数の増加傾向を示した（図5）。

Ⅴ．地域別患者数

福岡市内、市外近郊における地域においては城南区522例（19.4%）が最も多く、次いで西区410例（15.2%）、南区335例（12.4%）、早良区284例（10.6%）、中央区212例（7.9%）であった。福岡市西部地域（城南区、早良区、西区、前原市、糸島郡）からの受診者は1,364例で入院患者総数の50.6%を占めていた（図6）。

考 察

1973年8月に福岡大学病院の開院とともに歯科口腔外

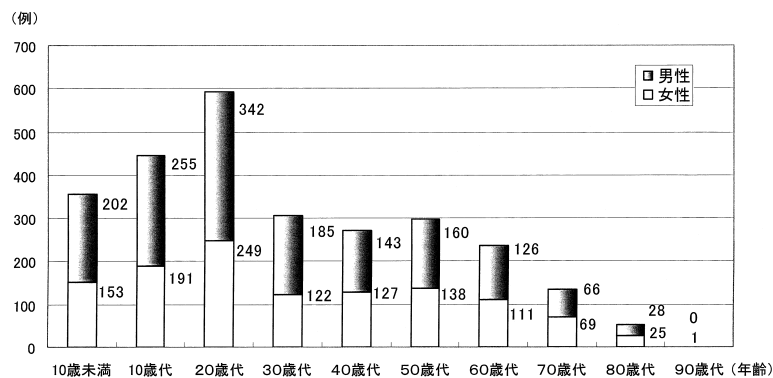


図2 年齢別および性別患者数

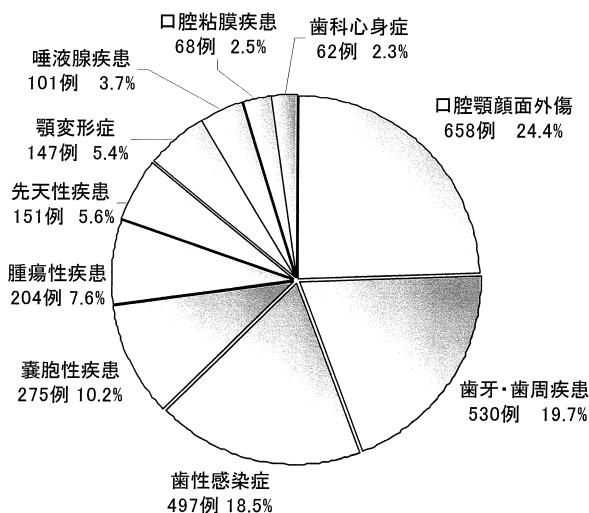


図3 疾患別患者数

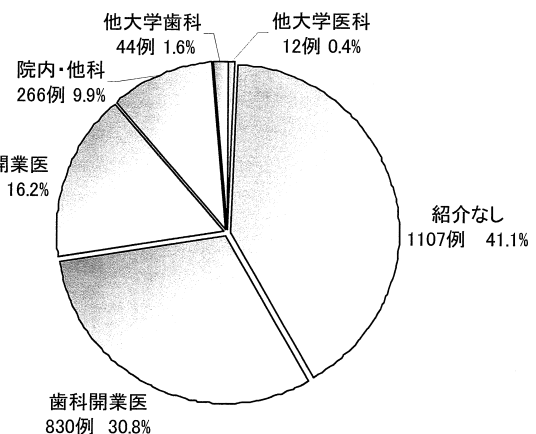


図4 紹介元医療機関

科も診療を開始，以来31年5か月を経過した．そこで今回，地域での医療的貢献度を評価する目的で当科入院下において治療した症例を対象に臨床統計的検討を行った．

新来患者および入院患者数では，31年5か月間で入院患者は2,693例（7.7%）であった．1999年草野ら¹⁾，1997年福富²⁾らは入院率5.4～6.8%と報告しているが，当科の入院率はそれより高い7.7%であった．

年齢別患者数では，20歳代の受診者が最も多かった．10歳代が多いとする報告³⁾，20歳代が多いとする報告¹⁾⁴⁾があり，施設により様々であった．当科では，福岡大学病院周囲の住居施設の増加，交通機関の発達，福岡大学の学生数の増加や救急外来における積極的な患者

の受け入れの結果，外傷患者などの増加により20歳代の患者層が多くなったものと考えられた．

男女比は，1.27：1と男性が多かった．これは，1999年草野ら¹⁾，1998年広谷ら³⁾，1986年名取ら⁴⁾の報告と同様であったが，2001年青山ら⁵⁾の報告とは異なる結果であった．この結果としては，歯学部付属病院と医学部付属病院では受診患者の受傷原因に相違があるということ，すなわち外傷による受診患者が医学部付属病院では大きな割合を占め，外傷患者が男性に多いことによるものと考えられる．

当科の疾患別患者数では，口腔顎顔面外傷が658例（24.4%）と最も多かった．従来の報告では，嚢胞性疾患が多いとする報告¹⁾，腫瘍性疾患が多いとする報告²⁾，外

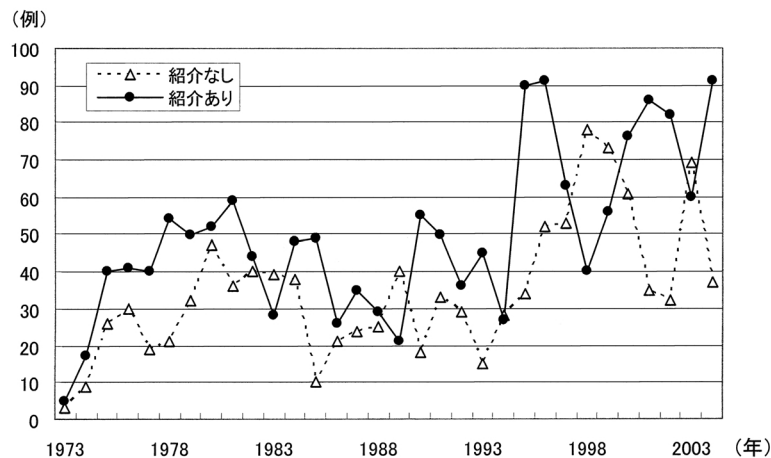


図5 紹介患者数

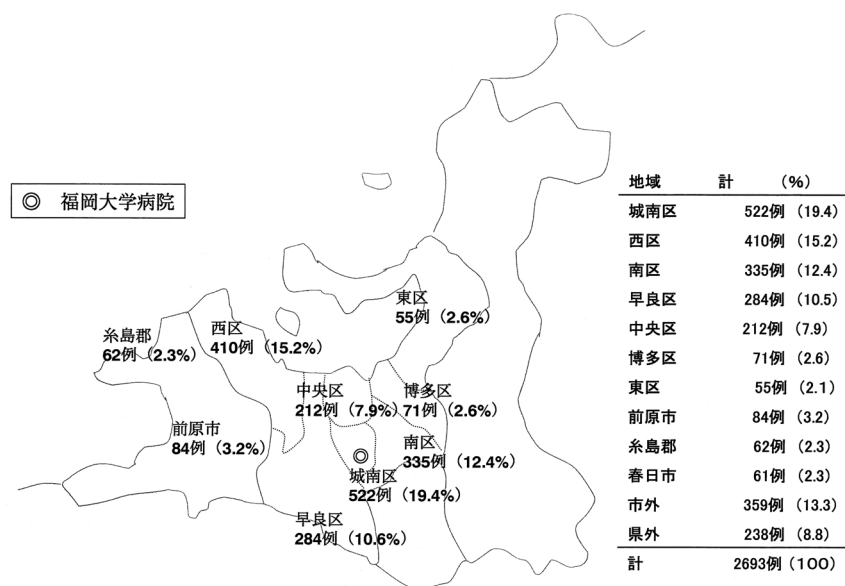


図6 地域別患者数

傷が多いとする報告³⁾⁴⁾、奇形が多いとする報告⁵⁾があるが、これは医学部、歯学部附属病院などの施設形態や、施設内の診療科の診療形態が大きく影響していると考えられた。

紹介患者数に関しての報告はないが、紹介元医療機関において1986年名取⁴⁾は、骨折では一般外科系病院、歯科開業医からの紹介が多いと報告している。今回、疾患別に紹介元医療機関を分類していないが、当科においても同様のことが言えると思われた。また、当科入院患者の内、紹介元医療機関のある患者が1,586例（58.9%）であり、歯科開業医を始めとする周辺地域の医療機関との連携が比較的に取れているとも考えられた。また高齢化社会が進む現状において、基礎疾患を有するために一般歯科開業医では対応が困難な症例への当院医学部各科の協力のもとでの全身管理を含めた当科の歯科対応の結果であるとも考えられ、今後も当科の特色を生かし、医学部各科との連携のもと、医科の中での歯科口腔外科の役割を明確にし、より広い範囲で地域医療に貢献し、より高度な医療を提供されるように努めることが重要であると考えられた。

地域別患者数においては、福岡市西部地域の患者が半数を占めていた。福岡市以外の市外からの受診者も多く

見られ、これは1989年から当科において顎変形症の治療を開始したこと、1992年に当院救急救命センターの発足などが市外居住の受診者の増加となったものと考えられた。今後、さらに周辺地域の医療機関との確固たる連携の確立が必要であると思われた。

結 語

今回、地域での当科の医療的貢献度を評価する目的で当科入院患者の過去31年5か月の症例を対象に臨床統計的検討を行い、次の結果を得た。

1. 31年5か月間の新来患者総数は34,877例で入院患者総数は2,693例（7.7%）であった。
2. 年齢別では20歳代が最も多く、次いで10歳代、10歳未満、30歳代の順であった。
3. 疾患別では口腔顎顔面外傷658（24.4%）、歯牙・歯周疾患530（19.7%）、歯性感染症497例（18.5%）であった。
4. 入院患者1,586例（58.9%）は他施設からの紹介であった。
5. 地域別では福岡市西部地域が50.6%を占めていた。

表1 疾患別内容症例数（重複あり）

口腔顎顔面外傷	例	歯性感染症	例	嚢胞性疾患	例	顎変形症	例	腫瘍性疾患	例
下顎骨骨折	341	智歯周囲炎	208	歯根嚢胞	118	下顎前突症	74	血管腫	68
歯槽骨骨折・歯牙脱臼	156	上顎骨周囲炎	199	貯留嚢胞	75	下顎骨非対称症	25	線維腫	34
上顎骨骨折	136	下顎骨周囲炎	161	含歯性嚢胞	45	開咬症	17	エナメル上皮腫	27
軟組織裂傷	96	蜂窩織炎	63	歯原性角化嚢胞	13	小オトガイ症	11	多形性腺腫	25
上顎骨・頬骨骨折	76	骨髓炎	35	鼻口蓋管嚢胞	9	上顎前突症	11	歯牙腫	14
頬骨骨折	52	歯性上顎洞炎	34	類表皮嚢胞	9	上顎後退症	6	脂肪腫	11
上顎骨・下顎骨骨折	48	リンパ節炎	22	残留嚢胞	5	下顎後退症	4	悪性腫瘍	8
上顎骨・下顎骨・頬骨骨折	32	計	722	類皮嚢胞	5	咬筋肥大症	2	神経鞘腫	2
下顎骨・頬骨骨折	10			甲状腺舌管嚢胞	1	プレート、ネジ除去	44	その他	21
異物迷入	3			計	280	計	194	計	210
プレート除去	81								
計	1,031								

先天性疾患	例	粘膜疾患	例	歯牙・歯周疾患	例	歯科心身症	例	唾液腺疾患	例
小帯異常	93	ウイルス性疾患	37	埋伏歯	208	非定型顔面痛	35	顎下腺唾石症	81
口唇口蓋裂	25	粘膜びらん・潰瘍	21	辺縁性歯周炎	156	顎関節症（PSD）	17	顎下腺炎	49
軟口蓋裂	19	白板症	8	齲蝕症	121	舌痛症	10	耳下腺炎	11
口蓋裂	16	計	66	根尖性歯周炎	61	口臭症	7	計	141
口唇裂	12			計	546	咬合異常感症	2		
計	165					計	71		

以上より、当科の地域的貢献は比較的高いものと示唆された。

引用文献

- 1) 草野 綾, 高橋雅幸・他: 防衛医科大学歯科口腔外科における外来患者および入院患者の臨床統計的観察. 防衛衛生, 46: 291-298, 1999.
- 2) 福富 茂, 西嶋 寛・他: 岡山大学歯学部附属病院第一口腔外科における25年間の外来患者と入院患者の臨床統計的観察. 岡山歯誌, 16: 197-205, 1997.
- 3) 広谷 勝, 浜田 傑・他: 近畿大学医学部附属病院歯科口腔外科入院患者の8年間の臨床統計的観察. 日口外誌, 34: 1941-1948, 1988.
- 4) 名取 淳, 中島 亭・他: 兵庫医科大学歯科口腔外科開設後5年間における入院患者の臨床統計的観察. 日口外誌, 32: 2144-2149, 1997.
- 5) 青山玲子, 高木律男・他: 最近10年間の新潟大学歯学部附属病院第二口腔外科入院患者の臨床統計学的検討. 新潟歯誌, 31: 153-157, 2001.

(平成17.11.10受付, 17.12.26受理)